



ライオン各位

世界的に重大な出来事が起こった時、皆さんは自分がその時にいた場所を鮮明に覚えておられるのではないのでしょうか。ハイチのレナンドさんも、1年前に大地震が彼女の家を襲った時、自分がどこで何をしていたかをはっきり覚えています。今号のニュースレターでは、彼女の体験を取り上げています。私たちライオンズが、震災後に彼女やハイチの人々の生活の再建をどのように支援してきたかをご覧ください。



ハイチで歴史的な大地震が発生してから今日で1年になります。しかし、私たちの救援活動が行われているのはハイチだけではなく、世界中で何千もの支援を提供しています。ライオンズの皆さん、災害復興の取り組みにおける私たちの成果を誇りに思ってください。必要があればどこであっても、近くのライオンズクラブが対応します。災害が発生すれば、ライオンズは最初に支援の手を差し伸べ、最後に引き上げる存在です。

世界のライオンズファミリーの惜しみないサポートがなければ、このような支援を行うことはできません。財団が最も支援を必要とする人々に手を差し伸べられるよう、財団へのご協力をお願いします。レナンドさんの、家を再建するという夢を実現してくださったことに感謝します。一緒に、「思いやり」という橋をかけていきましょう！

草々

ライオンズクラブ国際財団理事長
エバハルト J. ヴィルフス

